

第 1 回 館山市議会定例会会議録
(第 5 号)

1 昭和60年3月12日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

1 番 神田 守隆
3 番 山中金治郎
5 番 川名 正二
7 番 榎本 春光
10 番 横溝 功
12 番 石井 謀
14 番 伊藤幸太郎
16 番 松下 正己
19 番 黒川 平治
23 番 伊賀 多朗
25 番 五十嵐 昇
27 番 安西 益男

2 番 田沢 勝信
4 番 日下 君敏
6 番 生稻 隆
9 番 福原 勤
11 番 飯田 義男
13 番 石井 昌治
15 番 渡辺 昭夫
17 番 近藤 好雄
21 番 吉田勇治郎
24 番 流山源次郎
26 番 石井 正
28 番 安澤 徳順

1 欠席議員 3名

8 番 小宮 利夫
22 番 林 豊

20 番 石井 武敏

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 山田 俊康
総務部長 川畑喜代志
経済部長 吉岡 政雄
教育委員会委員長 杉村 芳枝

助 役 小倉 澄男
市長公室長 斉藤 武男
民生部長 鈴木 力
水道課長 石井 敏夫
教育委員会教育長 福原 修

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第5号)

昭和60年3月12日午前10時開議

議案第1号 昭和60年度館山市一般会計予算

議案第2号 昭和60年度館山市国民健康保険特別会計予算

議案第3号 昭和60年度館山市老人保健特別会計予算

日程第 1

- 議案第 4 号 昭和 6 0 年度館山市と畜場特別会計予算
- 議案第 5 号 昭和 6 0 年度館山市ユースホステル特別会計予算
- 議案第 6 号 昭和 6 0 年度館山市学童災害共済事業特別会計予算
- 議案第 7 号 昭和 6 0 年度館山市水道事業特別会計予算
- 議案第 8 号 昭和 6 0 年度館山市国民宿舎事業特別会計予算

開 議 午前 1 0 時 0 4 分

○議長（石井 正君） 本日の出席議員数 2 3 名、これより第 1 回市議定例会第 5 日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第 1、議案第 1 号乃至議案第 8 号昭和 6 0 年度館山市一般会計及び特別会計予算を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長（石井 正君） これより質疑に入ります。

通告がありますので、発言を許します。

1 番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1 番議員神田守隆君登壇）

○1 番（神田守隆君） 議案の第 1 号昭和 6 0 年度館山市予算についてお尋ねをいたします。私の質問ですが、予算書に基づいて進めていきたいと思ひます

まず、第 1 点は、2 5 市税についてでございます。市民の市税負担の動向とそこにあらわされております市民の可処分所得、いわゆる可処分所得の動向についてお尋ねしようとするものであります。

予算説明書の 8 頁に市民の市税負担額表がございますが、個人市民税 1 人当たりの負担額は 2 万 9 0 0 6 円、固定資産税で 2 万 4 1 8 9 円となっ

ております。ここ5年間の市民の税負担はどのくらいふえてきているのか、個人市民税と固定資産税についてで結構でございますから御説明をいただきたいと思うのであります。

政府の統計によれば、勤労者のいわゆる可処分所得がこの間対前年比マイナスになる年が3年もあるなど大変に厳しいものがございました。当市の平均的な勤労世帯でこの間この可処分所得はどのくらいふえておるのか、あるいは減っておるのか、この辺の実態についてどのように把握されておられるかお聞かせを願いたいと思うものであります。

第2点は、30年度の国庫支出金の2億3481万7000円という対前年比大幅減額の問題についてであります。12月の議会で国庫負担一律10%カットの問題につき約8800万円ほどのカットが見込まれるとの説明がございましたが、これは地方自治体にとって大変に大きな問題だと思います。国による地方に対する負担転嫁ともいえるわけで、改めてこの問題について市長の御所信をお聞かせ願いたいと思うのであります。

第3点は、79年度児童措置費及び保育所費に関しての問題でございます。保育所の措置児童数の動向について、定員に対します措置児童数、いわゆる充足率について、ここ数年の動向について御説明をいただきたいと思うのであります。今後の動向について、児童数の減少、その一方で共働きあるいはパート、婦人の労働への参加、こうしたことからそれぞれ減少、あるいはその必要度の増加、さまざまな要因があらうかと思えます。こうした点についてこの数年の動向を御説明いただきまして、この問題についての参考にさせていただきたいと思えます。

第4点は、54年度になりますが、もとに戻ります。総合計画作成委託料ということで140万円が計上されておるわけでありまして。館山市のこれからはどうあるべきなのか、それが長期構想ともなりますと、文字どおり100人いれば100人意見が違ふといってもよいのではないかと思います。この総合計画は市政の基本計画であり、市民の英知を結集し、文字どおり広範な市民の参加のもとに決定すべきものと考えます。この総合計画の作成の進め方、そのあり方についてどのように考えておりますか。

また、ここには委託料として計上されておるわけでありまして、この委託とは具体的にどのようなものだと考えればよいのか、御説明をいただき

たいと思うわけであります。

次に、第5点目は、73頁であります。老人福祉費の中の老人ホーム入所判定委員会報償金についてでございます。この老人ホーム入所判定委員会の委員にはどのような方になるのか、そしてこの委員会の権限や役割はどのようなものなのか。こうした判定委員会を設置するにあたって、これまでこの入所の問題をめぐってどのような問題があったのか御説明を賜りたいと思うわけであります。

次に、議案の第2号昭和60年度館山市国民健康保険特別会計予算についてでございますが、第1点は、国民健康保険は国の委任事務であり、その事務費などは全額国において負担すべきものでございます。しかし実際にはいわゆる超過負担がかなりあるわけであります。この超過負担は幾らあると考えられますか。そして、その原因は何だと考えておりますか。

第2点は、県下28市の中で、昭和57年度の調査資料によりますと、19の市で一般会計からの繰り入れを実施しているようでございます。その際、どのような考え方や基準で繰り入れをしておりますか、調査をしたことがあるかどうか。あるとすれば、その内容について御説明をいただきたいと思うわけであります。

第3点目は、当館山市の国民健康保険税の水準は、昭和57年度の決算の数字等で見ますと、県下28市中第3位でございまして、当市の国保税の高い理由は老人人口比の高いことにありましたが、その後老人保健法が施行され、こうした事情はなくなったのではないかと思います。また、退職者医療制度の問題もでございます。こうした中で当市は県下で検診受診率などの面では最も進んでいる市の1つではなかろうかと思われまゝ。予防が進んでいるわけで、こうした事情からすれば館山市の国保税の水準はかなり低くなっているのではないかと考えられるわけでありますが、この点について現在館山市の国保税の全県における水準はどの程度のものがございますか、お聞かせを願いたいと思うわけであります。

もし、高いのだということであるとするならば、それについての分析なり、お考えはどのようでありますか、あわせてお聞かせ願いたいと思います。

以上、御質問を申し上げまして、御答弁によりまして再質問をさせてい

たきます。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えいたします。

第1点は、市民の市税負担の動向についてという御質問でございますが、昭和56年度から昭和60年度までの5カ年間の市民税及び固定資産税、都市計画税につきましては、当初予算の段階で市民1人当たり負担額は56年度4万3593円、57年度4万9094円、対前年比13%の増、58年度5万2229円、対前年比6%、59年度5万5069円、対前年比5%、60年度5万9346円、対前年比8%の増となっております。

また、1世帯当たりでは、56年度13万8417円、57年度15万4585円、対前年比12%、58年度16万3127円、対前年比6%、59年度16万9883円、対前年比4%、60年度18万927円、対前年比7%の増となっております。

なお、可処分所得につきましては、当市においてはいままで計算したことがございませんので、今後勉強いたしまして計算をいたすことにいたしたいと思いますので、御了承いただきたいと思います。

次に、国庫支出金の対前年比の大幅減額についての御質問でございますが、国は昭和60年度予算案において国庫補助負担率の引き下げを行い、地方財政にその負担の転嫁を求めています。全国市長会といたしましては他の6団体と共同いたしまして従来から反対を決議し、関係機関に申し入れてきたところでございます。

現在、国会で補助金等整理一括法案を含め審議中でございますが、その措置は60年度1年度限りの暫定措置とされておるわけでございます。61年度以降におきまして再度地方財政を圧迫し、財政秩序を乱すことのないよう今後とも全国市長会を通じまして働きかけてまいりたいと思います。

次に、保育所の措置児童数の動向でございますが、昭和52年度の充足率は97%でございましたが、これをピークといたしまして昭和59年度は79.5%と約20%の定員割れをいたしております。主な原因は出生率の低下によるものでございます。

なお、現在は、保育所に対するニーズが多様化しておりますので、これらを踏まえ、障害児保育、乳児保育、長時間保育等、内容の充実を図って

おりますが、さらに運営面での効率化を推進してまいりたいと考えております。

また、就学前児童の実態調査につきましては、経済的な理由による低所得世帯には減免等救済の措置が講ぜられており、その他の世帯につきましては現制度で十分対応できるものと考えております。

次に、第4点、総合計画作成についての御質問でございますが、21世紀に向けての総合計画策定につきましては、策定の基本姿勢としては、まず何よりも市民皆さま方の率直な御意見を十分拝聴しながら実効性のあるかつ魅力あるまちづくりにふさわしい計画ということで、内部的にはすでに昨年末館山市総合計画策定会議の組織及び運営に関する要領を定めて、策定委員会及び策定班を設けまして、素案作成に取り組んでおります。

一方、外部的には市内各層の代表及び知識経験者による総合計画審議会もすでに2回開き、それぞれ各委員の御意見も拝聴いたしました。また、一般市民、市内高校生、市職員等の意識調査も昨年実施いたしまして、できるだけそれぞれの方々の御意見を拝聴しながら21世紀に向けての館山市の将来像を初めとした行政運営の指針となるべき総合計画づくりを進めてまいりたいと存じます。

計画目標でございますが、一応西暦2000年に向けてのビジョンとして、基本構想は昭和61年度から昭和75年までの15年計画、これを受けての基本計画は昭和65年までの具体的施策をあらわすものとして作業を進めております。

なお、本計画策定にあたっては、原則的に手づくりということで行っておりますが、東京湾横断道路の大規模プロジェクトを初め、社会経済情勢の変化、高度技術化時代等極めて難しい要因もありますので、都市社会学の権威であります磯村英一先生の御指導、御助言を依頼してまいりたいと考えているわけでございます。

次に、第5点、老人ホーム入所判定委員会についてでございますが、老人ホームの入所措置につきましては、国の措置基準に基づき適正を図っているところでございますが、今回、国の方針に従い、健康状態、日常生活動作の状況等を総合的に判定し、入所措置のなお一層の適正化を図るため、医師、保健所長、老人福祉施設長等を委員として入所判定委員会を設置す

るものでございます。

なお、入所措置に際しての問題点は特にございません。

国保会計についてお答えをいたします。

昭和59年度国保会計事務費負担金の超過負担額でございますが、昭和60年2月4日補助金申請した時点では事務費負担金対象費用額5463万8851円、事務費負担金決定額4277万7772円で、この差1186万1079円が超過負担になります。

この原因といたしましては、事務費負担金対象費用額の84.4%を占める人件費でございます。

次に、一般会計からの繰入金でございますが、昭和59年度当初予算におきましては県下28市中17市が予算計上しており、繰り入れする理由といたしましては、国保税の大幅な引き上げを緩和するための繰り入れが主なものでございます。

次に、1人当たり国保税現年度調定額と診療費でございますが、58年度決算額でそれぞれ3万6886円と7万8339円になり、28市中ともに上位から4番目になります。

診療費の高い原因といたしましては、受診率が高いことと高齢人口が多いことが原因と思われます。

以上、御答弁を終わります。

◎1番（神田守隆君） 第1点の、市民の市税負担の動向、詳しい数字をお示しいただいたんですが、市民の——例えば個人市民税、この5年間で見ますと、先ほど各年度ごとに数字をいただきましたが、大体私どもで計算してみると34%、あるいは固定資産税見ますと37%ということで、市民の税負担が大変にふえたなと思うんです。私どももやはり市民税が大変高いとか、固定資産税が高いとか、国保税が高いとかということを年がら年じゅういわれているわけでありまして、なるほどこういう数字を見ますと実感をもって非常に高くなっている。

そういう中で今の市民の——それだけ所得水準が上がって、市長さんではないですけども、快適なゆとりある生活を市民が営まれるようになってしたがって担税力が伸びたんだということならば、それはそれで結構だと、しかし実際に可処分所得でははたして本当に伸びているのだろうか、

これは市政を担当する者としては市民の生活実態、一体どうなんだろうか心配なさって私は当たり前だろうと思うんですけれども、こうした可処分所得の問題については計算したこともないということで大変残念だと思うんです。

市長さんは、快適なゆとりある生活環境といってますから——快適なゆとりある生活環境を市政の第1方針に掲げるならば、本当に、まず市民の生活、暮らし向きがどうなっているのか、これについての調査もないというんでは全く心細い限りでして、この辺はきちんと市民の生活実態についての——今後計算をして配慮していきたいというふうに先ほどの答弁を受けとめましてぜひそうしていただきたい。そういう中でやはり今の市政というものを進めていかなければならぬではないかというふうに思うわけがあります。

それで、ちなみに政府の統計資料あるんです、可処分所得の動向についてという、これはこの間3年にわたってマイナスなんですよ、実際に。館山市民はマイナスなのかプラスなのかということについては、政府の統計に比べてどうなのかということについてはいろんな議論があるでしょう、調べてみなければわかりませんから。私が考えるところでは、かえって国よりももっと悪いんじゃないかという危機を感じるわけです。そういうことですから、きちんと調査をしていただきたい。また、この調査結果については別の機会にお示しをいただきたいと思うんです。

第2点目の、国庫支出金の問題については、大変に私どもも義憤を感じるわけです。市長さんも文字どおりこうした国のやり方に対してやはり、60年度はもちろんですが、61年度以降のことも含めまして、やはりこうした不当な措置をなくすという点で文字どおり先頭に立って頑張りたい。これは要望しておきます。

3点目の、保育所の措置児童数の問題、これについてはまた別の機会に議論をしていきたいと思います。

今の、大体、実態20%の定員割れということについて、一応そのことはそのこととしてわかりました。

それから、総合計画の問題、これについてもどのように考えているかということについてはわかりました。

第5点目の、老人ホームの入所判定委員会について、国の指導によってということで、特にこれまで問題もなかったということで、こういうことでありますが、この入所判定委員会をつくったために、今まで問題がなかったのがかえって問題が出てきたということになってもまたおかしいことですから、その辺の運用については十分な配慮をもってお願いをしていたきたいというふうに思います。

国民健康保険の関係に移らさせていただきますが、超過負担の問題で1186万という超過負担がある。このうちの大きな部分を占めるのは、8割強人件費の関係である。これは、人件費というのはどういうふうに受けとめたらいいのかというと、1つは、国の人件費に対する基準単価が低過ぎるということなのか。基準単価といいますか、逆にいえば市の実際の給与の点で職員の——実際の職員の給与が基準と比べて高いということなのか。それは見方によって高いという言い方もあるし、逆に国の方が低いという言い方もあろうかと思うんですが、その辺ですね。あるいは人数の面でこれは国の方が少な過ぎるのか、実態に合っていない人数になっているのか。もう少し、人件費が大きな部分を占めるようですから、その辺の内容を御説明いただきたいと思うんです。

次に、28市の中の繰り入れの考え方ですね。一般会計の繰り入れの考え方で、私は、57年度ですと19ということでありましたが、そちらの調査では58年度でしょうか、17ということでは若干少なくなったようではありますが、繰り入れをするのは国保税が高過ぎるからそれを緩和するためだということで、それはそのとおりだと思うんです。

しかし、逆にいえば基準ですね。緩和するということなんですが、どこまで緩和するのかということも必要なわけで、どういうような——繰り入れについての考え方がやはり自治体それぞれあるんじゃないかなと思うんです。そのことを聞きたいわけで、もちろん繰り入れすれば緩和されるのはわかっているんですが、どここの水準まで緩和するとかその辺の考え方、突っ込んだ考え方についての調査、そういったものがどうも今の御答弁ではされたことがないんじゃないかなという気がするものですから、もしなければならぬ今後調査をしていただきたいと思いますし、そして調査したことがあるんならその緩和の考え方、もう少し突っ込んだ内容での御説明

をいただきたいと思います。

第3点目の、県下の水準で57年度では第3位が4位になって、若干、1つ下がったということなのですが、それにしても高位水準であることは間違いないわけです。緩和をしなければならないというのはまさにこういうところなんです。国保税の水準を下げるために一般会計から繰り入れするのはこういうところこそやらなければいけないんじゃないかと私は思うわけです。

違った面からの問題として、非常にこの高くなっている理由、これはおそらく医療給付が高い。57年度の数字でも医療給付の面では第5番目ですか、1人当たりというふうなことでしたから、それに見合って税も高いんだというようなことでありましたが、おそらくこの4番目というのもこうしたことの反映だろう、その間には一般会計から繰り入れをしているとか、していないとかという問題も当然関係してくるわけではありますが、大まかに見ればやはりそうした医療給付の点での水準が高いからなんじゃないかなというふうに思うんですが、その辺についてはどういうふうになっているのか。

今の御説明ですと、受診率だとか、あるいは高齢人口の比率が高いことがなっておりますね。どうも高齢人口が多いということが即水準の高いということにどうしてつながるのか。というのは、70歳以上の老人についての老人保健法の関係、退職者医療の関係、こうした点から見て相当緩和されていていいんじゃないかなという気もするんですが、この辺はこの高齢人口という受けとめ方はしにくいですね。

そうしますと、高齢人口といっている場合のこの内容は具体的にどういうことなのか。例えば給付の中の、被保険者の割合の中で、人口構成の上でどういうふうになっているかという数字的な、具体的なお示しをいただければと思うんです。もしなければないで結構ですから、また別の機会に詳しくお願いしたいと思います。

以上。

○民生部長（鈴木 力君） お答え申し上げます。

まず、国民健康保険の事務費の超過負担の問題でございますが、国の事務費の国庫負担金の算定にあたりましては、その仕組みといたしましては、

保険者の被保険者数に応じた基本額、これは例えば館山市の場合には2万5601人から2万6000人が3014万8000円というふうになっております。それに世帯構成者の補正、それから異動補正、地域差補正により算定された額を加えまして、さらに本年の場合には退職被保険者数による加算額、これを合算しましたものが負担金の額として算定されるわけでありまして。

市の実際に要する事務費といたしましての負担金対象費用額につきましては、人件費がおおむね84%ということでございます。これは現在、国保支弁職員が11名おりますが、市民課の国保係以外に税務課、収納課、あるいは電算、それぞれに配置されておまして、そういうことで算定の全く根拠が違ふわけでございます。したがって、国庫負担金の額、なお事務に要するいわゆる対象費用額との差が出るわけでございます。そのように解釈しております。

それから、2点目の、一般会計からの繰入金の考え方でございますが、国保制度は相互扶助の建前上、特別会計としまして独立採算主義を原則としているわけでございます。安易に一般会計から繰り入れることが適当かどうかということについてはかなり疑問があるかと思ひます。

当市におきましては、その被保険者に対する国保税の趣旨、内容について、十分理解、協力を得るような対策を立て、周知徹底を図ることに努力をしておるわけでございます。

他市におきましては、税の大幅な値上げの緩和ということをやっているようでございますけれども、それぞれ保険者の考え方があるわけでございます。

それから、税が館山市は高いという、その理由ということでございますが、市長からお答えいたしましたように当市の人口構造の老齢化、特に50歳台、60歳台が被保険者の合計31%を占めております。そのいわゆる保険の受診状況を見ますと、50代、あるいは60代の年齢層がかなり高い1人当たりの診療費ということになっておまして、そういうものがおおむね当市の高い原因だ。

そのほか、館山市の疾病統計を見ますと、最近循環器系の疾患が非常に多くなっておまして、これはいわゆる成人病でございまして、そういう

疾病構造が変化したことによってかかる日数が多いわけでございます。この点、検診事業の充実ということも必要でございますけれども、医療費の増高の原因ということがいえるわけでございます。

それから、館山市の場合には、医療救急体制が比較的整備されているということでございまして、医療機関が県下におきましてもかなりその数ということも原因じゃないかと思えます。

もう1つは、医療費のうち、最近入院に関する費用が多くなって、外来よりもむしろ入院の占める医療率というものが上回っているということが最近の傾向でございまして、これも医療費が増高しているということで……。

そういうようなことから、税というものは医療費用に応じた課税でございますので、館山市の場合、税が他市よりも比較的高いという原因になるかと思うわけであります。

◎1番（神田守隆君） 館山市では高齢人口の比率が高い、50歳台、60歳台の比率が31%ということで多いんだということでありますが、これは手元にそういった資料ございませんので、もしその資料でもございましたら御説明をいただきたいんですが……。

それは、他市との比較で、50歳台、60歳台の他市の健康保険の場合には例えば20%ぐらいだとか、そういうことであるならば確かに31%ということは館山市は高いということになりますけれども、その辺の概略の御説明をいただければと思うんですが……。

それと、今循環器系の病気がふえているとか、それから入院が多くなっているとかというのは、これは前に比べて館山がそうなっているということとはそうなんでしょうけれども、ほかのところはそういうふうになっていないんですか。館山市だけ循環器系の病気が大変ふえているとか、あるいは非常に入院がふえているとか、これは館山市の国保に限って特にそういう傾向が出てきているという問題なんですか。

だとすれば、それはそれなりにやはりもっと考えなきゃいけない問題をもっていると思うんですが、全国的な傾向だとすれば、これが特に館山市の高くなっている理由だとするには当たらないんじゃないかな、こう思うんですが、いかがでしょうか。

それから、医療体制が非常に充実している。県下——県北の方では医療砂漠という言葉があるくらい、大変そういうところから見れば安房郡市というのは医療の体制は比較的整備されている。しかし、それも——だからそうであればこそ早期治療なり、受診率が高まっているといえますか、早期治療なり予防なりがきちんに行われればかえって医療費の負担は低くなる、こういうような分析も全国にはあるわけですから、医療体制が他市に比べて充実しているとか、受診率が高いからというのは、ちょっとそれをそのまんま医療費の高い理由にするのはどうかなと思うんですが、その辺いかがですか。

◎民生部長（鈴木 力君） 当市の人口構造の高齢化ということにつきましては、これは県下と比較した場合におきましては、当市並びに近隣の安房地方においてはかなり進んでおるわけでございまして、70歳以上のみならずやはり50歳台、60歳台におきましてもその占める割合というものはかなり高いということがわかるわけでございます。

それから、循環器疾患が非常に最近多くなっているということは、全国的な傾向でもございすけれども、館山市の国保の疾病統計を見ましても、過去の比較、あるいは他市との比較をいたしましても、比率というものは高いということがいえると思います。

それから、次に、医療費のうち入院に要した費用、これにつきましても館山市の場合には特にここ1年のうちに外来よりも入院の方の総費用額が多くなっている、これは県下ちょっと調べてみたんですが、傾向としてはそういう傾向ありますけれども、館山市の場合は特にそういうことがいえるんじゃないだろうかと思います。

◎1番（神田守隆君） 今のお話は、聞いていると非常に深刻な問題を感じるんで、これは大変なことだと思うんですが、他市との比較でも循環器系の病気がふえている——全国的にもふえているけれども、さらに他市との比較でもふえている、あるいは入院も他市との比較でふえているとか、こういうことになりますと——しかも、50歳台から60歳台の比率が高いということだとすれば、文字どおり一家の大黒柱といえますか、社会的にもそれなりの社会的地位をもって大きな役割を果たしてきている方々が館山市の場合は他市に比べて非常に病気になりやすくなっている、医者に

うんとかかっている、それも重い病気になってきているという、そういうふうに言うというのは、じゃあこれは今まで館山市が行ってきた検診事業だとか——これは私が評価していたんですが、かなり全県的にも高い水準にあるという自負もあったわけなんです、結局それは大した役にたっていないというそんな心配もするわけで、この辺は実際どういうふうに受けとめておられますか。何か、特にこうした原因についてのさらに抜本的な、根本的な問題についての分析や何かをもう1歩しなければならぬのじゃないかなという気がするんですが、何かその辺についてのお考えがございませんか。

以上、その点で質問を終わります。

◎民生部長（鈴木 力君） 当市の場合、成人病予防対策といたしまして検診事業を総合検診を初め充実を図っておるわけでございます。これと医療費の関係でございすけれども、岩手県の沢内村ですか、あそこで検診事業を高めたために医療費が減ったという例がございすけれども、そこいらも視察をした例がございすけれども、これが長い目で見て初めてその効果というものがあらわれるわけでございまして、むしろ検診事業を当面やった時点では早期治療という点で受診率が高くなるということもあるわけでございまして、これは何年か先にはその効果があらわれて、医療費があまり高くない、こういうような結果になると考えております。

◎議長（石井 正君） 以上で1番議員君の質疑を終わります。

次、4番議員日下君敏君。御登壇願います。

（4番議員日下君敏君登壇）

◎4番（日下君敏君） 私は、すでに通告してございます点につきまして御質問いたしたいと思ひます。

議案第1号の昭和60年度館山市一般会計予算についてお聞きいたしたいと思ひますが、資料は館山市の予算書及び予算説明資料を用いて行いたいと思ひます。

まず、第1点目が、予算書の86頁でございす。環境衛生費で繰出金としましてと畜場特別会計繰出金が660万計上されております。と畜場については長い間懸案でございましたんですが、来年度から民営に移管するというようなことになったわけでございすけれども、繰出金660万

をつけておるといふことの御説明を願いたいと思います。

次が、予算書の107頁でございます。商工振興費負担金補助金というところの説明欄で、商店街近代化実施計画策定事業補助金200万が計上されておりますが、この策定計画の具体的な内容を簡単に結構でございますから御説明願いたい。

さらに、この補助金は本年から2カ年——来年度つくわけでございますが、その後もこれはついていくのかどうか。それについてもひとつお聞かせ願いたい。

次が、109頁、同じく商工費で説明欄の下の方でございますが、館山市観光振興事業補助金5500万計上されております。これは説明書15頁を見ますと、テニスの里づくりをいたすということになっております。この第2期スポーツの里の建設事業についての現在までの概要をお聞かせ願いたいと思います。その場所はどの辺にできるのか、さらにこの土地については、たしか山本の場合は賃貸が主だったのではないかと思います、買収するのか、賃貸していくのか、現在までの概要をお聞かせ願いたい。

次が、115頁、土木費の都市計画費といたしまして、委託料説明欄の市街地再開発推進業務委託料、これが委託料一括で2802万2000円で計上されておまして、説明書の17頁を見ますと、いまい少しその内容が載っております。そこで、館山駅東口地区の市街地再開発事業、その他に使うのだということがわかるのでございますが、この推進業務につきましましていまい少しお聞かせ願いたい。

説明書の17頁によりますと、東口地区市街地再開発等B調査とともに2項目上がっております。このB調査との関連につきましてもお聞かせ願いたいと思います。

次が、予算書の126頁、放送センター費でございますが、この放送センター問題につきましましては先般一般通告で石井武敏議員が教育委員長にお聞きいたしておったのでございますが、それに関連いたしますが、放送センター費2041万2000円計上されております。放送センターにつきましましては、設立の目的が市街地と山間僻地の学校間の格差をなくすために、放送、その他を通じてそういった格差をなくそうということで放送センターが設置されたというふうに聞いておりますが、すでに放送センターその

ものの業務も終了しておるという現状から見ますと、放送センターそのものについて本質的に考えてもいいような時期にきておるのではないかと思いますので、その辺の御説明を願いたいと思います。

次が、129頁、学校管理費の15節で工事請負費ということで1220万となりまして北条小学校校舎補修工事、その他ということで各小学校を中心に工事の概要が載っておりますが、これに関連しましてお聞きしたいんですが、市内にいわゆる老朽校舎と申しますか、危険校舎と申しますか、そういったことの指定をされているようなところがないのかあるのか、あるとすればどこかのところがそういう危険乃至老朽校舎であるのか、そういうところについてはどのような措置をなされておるのか。大変危険ということになってまいりまして、言葉が、多少語弊を許されるならば、先生がけがをすることも大変ですが、万が一にもそういう老朽化のために生徒が、学童がけがをしたということになりますと、大変でございますので、ひとつその辺の老朽校舎に対する対策がどうなっておるのかお聞きいたしたいと思います。

次が、148頁、予算書でございます。説明欄の上から3行目に館山若潮マラソン大会委託料737万円が載っております。若潮マラソンということはことしで5回でございますか、聞くところによりますと、年々充実をしてきておるというふうに聞いております。館山のPRのためにも大変よろしい、さらに参加者もふえておるということでございますので、観光館山、さらにスポーツを熱心に行う館山ですよということをPRいたす意味でも年々充実をいたしているという意味からも、この若潮マラソンを42.195kmのフルマラソンへともっていく意図はございませんかどうか、前向きに御答弁をお聞かせ願えればと思うわけでございます。

続きまして、予算書の157頁でございます。これを見ますと職員1人当たりの給与、その他が載っておりますが、平均年齢を見ますと39歳6カ月——60年1月1日現在でございます。59年1月と変わっておらない。変わっておらないということは、この間に相当の努力がなされた結果変わっておらないんだらうと思うんですが、それにしてもやや39歳6カ月というのは高いような気がしまするが、千葉県下の他市と比較しまして一体どうなのかということをお聞かせ願いたい。

さらに、この問題につきまして、どのように対処なさっていかれるのかということもお聞きいたしたいと思います。

それから、158頁に移りますと、これはちょっと簡単にお聞きいたしたいんですが、特1等級という項目下の方にございまして、一般行政職として部長、公室長、こうなっております。簡単に単純計算しますと、館山市の場合は3部長1公室でございますから、4人かなと思うんですが、59年1月1日現在を見ますと5名、60年1月1日現在は6名とこうなっておりますので、この間の事情について簡単に御説明願いたいと思います。

また、つけ加えまして、先ほどの問題とあれでございますが、ラスパイレスにつきまして館山市の場合、国家公務員と比較しましてどうなのか、簡単に御説明願いたいと思います。

次が、86頁でございます。環境衛生費に関連しましてお聞きいたしたいと思うんですが、公害対策委員会というようなものもここに設置されておるということとございますので、環境衛生費、特に公害に関連いたしまして御質問をいたしたいと思います。

聞くとおとこによりますと、館山市の沼地先のところ、館山商港と市道の海岸道路との間の沼地先の海岸に生コンプラントを設置するという計画があるやに聞き及んでおるんですが、そういう計画があるのかどうなのかお聞きいたしたいと思います。

さらに、生コンプラントというものは、事業の性質上水を大分使います。さらにセメントという粉を使いますものですから、大分粉じん等々が上がり得るものと予想されますが、館山市は市の公害防止条例というものがございまして、それに基づいてそういった特定施設——ばい煙等を生ずるであろう特定施設については届け出るように条例に定めております。そういうことで一体この施設が届出をしておるのか、しておるとすればどういう会社で、どういう内容の事業を行おうとしておるのか御説明を願いたいと思います。

御答弁によりまして、再質問させていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 日下議員の御質問にお答えをいたします。

と畜場特別会計予算についての御質問でございますが、と畜場特別会計の60年度予算につきましては、本年3月末をもって市営と畜場の廃止を予定しておりますが、今までの経過等から第三者において4月以降運営がなされる場合をも考慮し、運営団体が決まった場合、速やかに再開できるよう施設機能を管理及び維持する必要があると考えまして、その期間を4月から6カ月間と限り管理維持型予算として調製したものでございます。

なお、そのほか汚水浄化装置の地方債残高500万1000円の繰り上げ償還を計上してございます。

次に、商店街近代化実施計画策定事業補助金についての御質問でございますが、これは千葉県モデル商店街指定事業の指定を受けております館山銀座商店街振興組合におきまして、本年は基本計画を策定中でございます。60年度におきまして引き続き資金計画、年次計画、概念図及び共同施設の詳細設計等具体的実施計画の策定をコンサルタントに委託いたしますので、その計画策定事業に対しまして補助しようとするものであります。

なお、商店街の共同施設整備事業につきましては、61年度以降実施する予定でございます。

次に、館山市観光振興事業補助金についてでございますが、これは58年度実施いたしましたスポーツの里山本テニスコート建設に引き続き、60年度実施しようとするものであります。

計画地は、館山市見物字奥田535番ほか43筆、地目は農地ですが、現況は休耕地で、敷地面積約1万8500㎡、施設内容はテニスコート20面、管理棟1棟、駐車場等で、総事業費は1億1600万円であります。事業主体は館山観光事業協同組合で、補助として市並びに県で5500万円を予定いたしております。

現在、事業協同組合におきまして、コンサルタントに依頼し、実施計画が進められており、関係地主との賃貸借契約がおおむね完了いたしております。

次に、市街地再開発推進業務委託料についてでございますが、館山駅東口地区、すなわちモデル商店街A街区再開発予定地区について実施する予定のものでございますが、これと並行して実施する予定の市街地再開発等B調査が再開発の事業計画の策定等主としてハード面の調査であるのに対

しまして、事業化の推進を図るため商業コンサルタントを導入して権利者との個別相談等ソフト面の調査を行うものでございます。

主な内容といたしましては、権利者が再開発ビルへ入居した場合の業種、規模、資金面等について商業アドバイザーとしての経営相談や権利者の税金対策、代替地対策、代替資産の運用等、事業化に伴う生活設計相談を行う予定のものでございます。

次に、放送センターでございますが、これは教育長より答弁をいたします。

次に、学校管理費についての御質問でございますが、御質問の該当校は神余小学校がでございます。同校舎の維持管理は今日まで屋根、天井張り替え、柱の根継ぎ及び壁、床等の修繕を行ってきておりますが、今後も建物の安全性には十分配慮してまいる所存でございます。

次に、若潮マラソンについての御質問でございますが、これは教育長から答弁をいたします。

次に、職員関係についての御質問でございますが、まず平均年齢につきましては昭和59年4月1日現在、一般行政職の平均年齢は38歳10ヵ月で県下28市中、上から4番目でございます。

次に、特1等級職員数が前年に比べ1名増員となった理由につきましては、部長職中1名が病気のため休職となり、他の職員を昇格させたことによる増員でございます。

次に、ラスパイレス指数につきましては、昭和59年4月1日現在、館山市のラスパイレス指数は110.5で、県下28市中、上から11番目でございます。

次に、沼地先に建設されるというコンクリートプラントに対する市の対応策についての御質問でございますが、館山船形漁業協同組合の陳情により館山の沼地先に生コンプラントの建設計画が具体化したことを知りましたので、事業者及び計画の事実を確認し、市の公害防止条例により粉じん、騒音等に関し特定施設としての届け出が必要である旨を連絡いたしました。3月8日届け出書が提出されてまいりましたが、それによりますと、設置者は鴨川市西町1198番地の1の外房生コン有限会社で、プラントの混練機容量は2^m、建設地は沼1726番地の3の準工業地域内となっております。

ります。

問題となります公害防止対策につきましては、粉じん及び騒音等につきましては密封型のベルトコンベアーを採用すること等により防止する計画となっております。なお、排水関係については、すべて循環式污水处理装置によりろ過処理し、再利用するため、汚水の流出はないという計画となっております。

(教育長福原 修君登壇)

○教育長(福原 修君) お答えいたします。

放送センターについてでございますが、教育放送センターは学校及び公民館等に有線テレビにより教育資料を提供するため、昭和47年10月に発足したものであります。当初は画期的な教育手段として教育界の注目するものでございました。ところが、その後、時代の変遷とともに新しい教育機器が生まれたり、あるいは放送の時間と学校現場の時間等の食い違いが生じ、利用度が減少してまいりまして、昭和56年度以降は放送を中止し、ビデオテープや16ミリ映画フィルム、スライド等作成して教育の場に提供してまいったわけでございます。現在、全国の公立視聴覚ライブラリー29カ所の中の1つでございまして、社会構造の急激な変化と教育の近代化に対応するための情報提供と研修、指導のセンターとして欠くことのできない役割を果たしておりますので、今後ますます放送センターの充実に努力していきたいと、このように考えている次第でございます。

次に、若潮マラソンについてでございますが、若潮マラソンをフルマラソンにしたかどうかというような御質問でございますが、おかげさまで好評を得まして年々若潮マラソンは参加者もふえております。本年度は2420名の申し込みがあった次第でございまして、市の大きな行事として定着してまいりました。

参加者初め競技関係者からもフルマラソンに移行できないかという要望も非常に多くございます。しかしながら、これが実施につきましては、コースの検討や交通事情等の問題もありますので、館山市体育協会等の関係団体や館山警察署等とも慎重に協議して実現できるかできないかを検討していきたいと、このように考えているわけでございます。

以上をもって答弁いたします。

◎ 4 番（日下君敏君） おおむね了承といたしますか、細かい点につきましては、後ほど予算特別委員会等々が開かれるでございましょうからそちらに譲りたいと思います。

なお、テニスの里ですが、それについては山本地区の状況もよろしいというようなことも聞いておりますが、ひとつ早期の開園に向けて御努力願いたいと思います。

それと、学校管理費につきましても、危険な老朽校舎につきましても、その安全性に十分注意していただきたいという点を要望しておきます。

それと、もう 1 点、環境衛生の公害問題でございしますが、館山市の公害防止条例によりますと、17 条で特定施設業者は届け出をしなさい、届け出がなされますと受理された日から 60 日以内、騒音または振動に係るものにあっては 30 日以内、これを経過した後でなければ特定施設を設置し得ない、こうなっております。特定施設というのが大変微妙なところでございまして、プラントそのものを指すのか、あるいは工事に入るものを指すのか大変微妙ですが、いずれにしてもこの 17 条で受理をして 30 日乃至 60 日間にわたって御検討をしていただくことになるだろうと思うんでございしますが、届け出をされました内容が設置基準に適合しているのかどうか、公害防止条例を見ますと規制基準を設けます、規制基準を設けて適合しないと認めるときは勧告その他をいたしますよと、こうなっております。

先ほど市長の御答弁によりますと、当該プラントは密封をして循環式を使いますということでございますが、あそこの地所は先ほどもその届け出にございました準工業地域でございますから、準工業地域内には工業的なものができるのは当然でございますので、それ自体には何ら不法乃至違法はなかろうと思うのでございます。

ただ、ものがものでございますから、いわゆる粉じんのようなものが起きるんじゃないか。特にあそこは西風が大変吹きますと住家の方に風が上がりまして、現在あそこに砂利その他が置いてありますが、相当な砂が巻き上がりまして、これまでも何度か県その他で対策を講じていたようなところですから、セメントその他を使いますと当然起きるんじゃないか。しかし、届け出で密封いたしますよということでございます。

さらに、排水につきましても循環式ということでございまして、汚水は全く流出しないということでございますから、山本にできます先端産業と同じようなことに相なるのかなと思うわけでございますが、とにかくセメント産業は大変水を使う事業でございます。さらにタンクローリー等を洗うことになろうかと思えます。そういった水もやはりそのまま海に流れないのかという危惧があるわけでございます。

御案内のように、あそこの海は沖合にイワシを中心とした生けすがございまして、カツオ市場の、えき場市場としては日本有数のものだと聞いております。あそこの海一帯は左右から、両サイドから堤防を引いてございまして、海流が回らないような、静かといえば静か、海流がないところでございますから、ちょっとした汚水といいますか、そういうものが流れただけで海水の汚染が起こるところでございます。かつて航空基地のあるところから汚水が出まして、一時イワシが全滅するというようなことが起こったところでございますので、あそこの公害といいますか、排水については御注意の上にも御注意いただかないとまずいということでございますので、海の問題は本当に確かに流れないものか。流れないといえば流れないんでしょうけれども、そういうことでございます。

また、陸の方とすれば、粉じんが出まして、相当住民の方々も御苦労なさっておるということでございます。しかしながら、それも密封するんだということでございます。それはそうでございましょうが、万が一密封がとれた、あるいは排水が流れた、そして公害が発生したということになりますと取り返しがつきませんが、その辺の補償関係といいますか、その辺についてはどういうふうに対処していくおつもりなのか、その辺についてもお聞きいたしたいと思えます。

こういう問題、市がそこに入っていくというのは大変難しいだろうと思いますが、と行って行政が介入しないというのもまた——なかなか業者と民間というのも話にもなりにくいというようなことがございます。そういったものを含めてひとつお聞かせ願いたいと思うんであります。

◎民生部長（鈴木 力君） 生コンプラントの特定施設としての届け出がなされているかということでございますが、これは館山市の公害防止条例によりましての届け出の義務があるわけでございます。これは市の条例の

場合におきましては騒音、振動、それから悪臭——悪臭の中にばい煙とばいじんを含むということでございますが、規制基準といたしましては、条例上は騒音というか、振動のみに限って規制基準が定められておるわけでございます。そのほかの関係につきましてはすべて法律によって、例えば排水については水質汚濁防止法、それからばいじん、粉じんにつきましては大気汚染防止法によりまして、それぞれ総理府令によりまして数値が定められておるわけでございます。

そういうことでございまして、届け出の内容を見ますと、排水関係、あるいはまた粉じん関係については心配ないというようなことで計画がなされているわけでございます。

そこで、排水の関係につきましては、今申し上げましたとおり水質汚濁防止法が適用されるわけでございますので、これが特定施設として県の方へ保健所を経由して届け出るようになっております。したがって、事後の水の再利用の関係についての判断については、判定については県が行う、あるいは補償関係等すべて県の指導監督下にあるわけでございます。市といたしましては、県とともにこれらに対して対処してまいりたい。

それから、粉じんにつきましても、やはり今申し上げましたとおり県の方へ届け出が必要でございまして、こういう関係につきましても今後の適正かどうかということについては、県が指導監督するということでございます。

補償関係等につきましては、今申し上げましたとおり県の指導監督に入るわけでございますので、市といたしましてもできる限りそれらについては住民の御要望がございましたらば対応していきたいというふうに考えております。

◎経済部長（吉岡政雄君） たまたま館山船形漁業協同組合長の方から市長あてに陳情書が出たわけでございますが、それがもととなりまして3月8日の申請になったわけでございますが、その際、漁業協同組合長さんほか数名の役員の方々が市長と面接をいたしまして陳情なされたわけでございます。その席上、建物等の——準工業地帯でございますので、建物を建ててはいけないという規制ができない、そこでいろいろ届け出もしていたかなければいけないのだけれども、生コンをこさえる会社と漁業協同組

合の——これは漁業権だけの問題でございしますが、漁業協同組合の幹部の方々とよく話し合いをして、実際どういう内容のもので本当に汚染はされないのか、そういう細かいところまでも突き詰めて話せるような場を市としてはやはりもってあげなさい、こういうことでございしますので、その当時は経済部が呼ばれましたので、そのことを組合長の方に連絡してございまして、25日以降にこの関係の会社と話し合おうということになっております。この25日以降というのは、組合の方の日程がどうしてもそれまで来れないということでございします。当時は20日以降ということでございしましたが、25日以降の週にこの会社の方々と会おう、こういうことで現在進んでおるところでございまして、この会社の方には近々私どもの職員が出向くことになっております。

以上でございします。

◎4番(日下君敏君) 大体わかりましたんですが、排水その他については法律に基づいて県が前面に出てやるんだということでございします。実際そのとおりだと思うんですが、補償についてもそういうことでやるんだということでございしますが、公害防止条例第7条、市長は他の地方公共団体に協力を求めて共同して行うということが載っておりますから、ひとつ市の方も県に一方的に委任するのではなくて、ひとつよろしく行政指導していただきたい、こう思うわけでございします。

それと、陳情書が出まして、漁協と業者との間で話し合いの場がもたれるということは、3月25日ということが時間的に少しずれるんじゃないかと思いますが、何かそういうような事情がおありでしょうから、そういうことでひとつ漁協と事業者の話し合いの行政指導をしていただきたい。

また、同時に地元の住民の方もあそこの接触というか、隣接地が大変広うございまして、館山市の上須賀から沼——沼というと、西ノ浜、柏崎、笠名、宮城ぐらいまでが隣接地になります。これまでも風が吹いて粉じんが飛ぶその他という場合、大体その辺の地域の人々が含まれておるようございまして、聞くところによりますと、その地区住民の方々もこのプラントについて大変関心を持っておりましていろんな動きがある、反対の動きがあるというようなことも聞いております。ですから、ひとつ漁協だけではなくて地元の住民と業者との間の話につきましても、ひとつ市がせっ

かく漁協に入るんでございますから、住民との間のいろんな詰めをやっていただきまして、ひとついい方向にやっていただきたいと思います。地元と市との関係についてもお入りになるかどうかひとつお答えをいただきたいと思います。

それと、ちょっと先ほども質問しようと思ったんですが、この届け出で設置については関係者の同意は要るのか要らないのか、ちょっと質問しそこないましたのでその辺を簡単にお聞かせ願えればと思います。

◎民生部長（鈴木 力君） 公害防止条例の面での届け出に際しましても、添付書類といたしましては特に同意というものは必要だということは定めておりません。

なお、建設しようとする近隣の、隣接する地元の方々との間におきましては中に入りまして市がいろいろと話を進めていきたい、このように考えております。

◎議長（石井 正君） 以上で4番議員君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ございませんか。

◎3番（山中金治郎君） 通告をいたしてございませんので、10点ほどですが、簡単にお伺いさせていただきます。

また、その前に今の関連ですが、循環式という機種、ということがありましたが、機種がわかったらお知らせ願いたいと思います。

予算のあれで質問いたしますが、まず歳出の方ですが、説明資料の49と予算書の49でございしますが、人件費の総体についてでございしますが、実質では昨年から5.83%伸びたということになっております。これはやはり市のラスパイレスが高いんじゃないかということかと思えますけれども、ラスパイレス指数が今市長の御答弁ですと110.5ということのようでございしますが、これも何か国の方としては111以上のものは下げようように指導するということを聞いております。また、その考え方と。

それと、160の高額退職手当、これ49に千葉県市町村総合事務組合負担金として1億5102万8000円というのが出ておりますけれども、160ですか、これの退職金のあれを見ますと、館山市の場合は最高が80.4ヵ月分とあります。国の方は63.525というんですが、

今度何か52.7に下げたというような話も聞いておりますんですけども、この辺、国の方としてもなるべく国家公務員並みに下げなさいという指導は新聞でも出されておりますので、この辺についてのお考え方をひとつお聞かせ願いたい。

次に、2点目は、公債費でございますが、説明資料の4頁を見ましても予算全体は減額になっておりますが、公債費は13.1%の伸びを示しております。これは公債費——市債がどんどんふえていくと後年度に負担がかかってまいりますので、後年度負担にすべき事業を限定する気はないのかどうかということ。

それと、3点目は、予算の52頁財産管理費に関連することでございますが、昭和44年ごろ聞くとおるところによりますと、国有地の払い下げだと思っておりますが、神戸、豊房、西岬等で11万4300坪購入してあると聞いておりますが、旧国有地の管理状況はどうなっておるのかお聞かせ願いたい。

また、4番目が、予算の103頁の漁業関係の予算でございますが、ここにクルマエビとかアワビの種苗放流についてわずかな予算が盛ってございますが、私これは研究、試験段階が過ぎておると思いますので、もっとこういうものは多量に放流をしていただけないかなと考えております。

それと、第6点目が115頁の都市計画費の総務費で公有財産購入費が8000万見積もってございますが、この金額はあと財産管理審議会に諮問するのかどうか、その辺をお聞かせ願いたい。

それから、歳入に入りますが、説明書の3頁を見ますと、市税が昨年度比で7%伸びておりますが、繰越金はやはり同じく5000万ということになっております。そこで予算全体の中でかなりの保留金を見込んであると思いますけれども、どのぐらいの財源を保留に見込んでおるのかどうか、これは大づかみでしかお答え願えないと思いますが、その辺をお願いしたい。

それと、市税の中で固定資産税がどのくらい昨年からみて伸びておるのか、その伸び率だけをお聞かせ願いたい。

それと、歳入の中の3点目で、地方交付税がここに載っておりますが、地方交付税の13億3500万のこれを計上された、この基礎となっておる基準財政需要額と収入額、これはどの程度に考えておるのか、それをお

聞かせ願いたい。

また、最後に4点目は、寄附金が300万ほど増額に計上されておりますが、その理由をお聞かせ願いたい。

以上でございます。

◎民生部長（鈴木 力君） 届け出のございました生コンプラントのいわゆる循環式汚水装置の機種につきましては、別に届け出ておりませんで、これは正式には保健所を経由しまして県の方に届け出ていただくこととなりますけれども、現在のところ届け出がないということ、機種につきましては判明をいたしません。

◎総務部長（川畑喜代志君） お答えいたします。

まず、ラスパイレス指数の関係でございますが、先ほど市長お答えいたしましたとおり110.5ということで59年度なったわけですが、この数字につきましてはここ2、3年低下をいたしてきております。

職員の退職等に伴います新たな職員の採用等の兼ね合いもありまして下がってきておるわけですが、いずれにいたしましても、国を100とした場合に110を超えているということで、聞くところによりますと国の方では今まで115以上の団体の引き下げについて指導しておったわけですが、今後さらに1ランク下げた形でもって指導したいということを考えておるようですので、私どもといたしましても可能な限り引き下げたいということで、努力を今後してまいりたいということで考えております。

それから、退職金の問題でございますが、退職金につきましては総合事務組合というところでやっておるわけですが、組合の支給率が高いということがいろいろいわれております。下げる下げないにつきましては総合事務組合で判断することでございますけれども、現下の国、地方を取り巻く行財政改革の折りでもありますので、この点につきましては慎重に見守っていきたいということで考えております。

続きまして、公債費の問題ですが、後年度負担を考えて事務事業の選択はできないかということでございますが、そういう考えのもとに新年度予算も組んだわけございまして、確かに公債費という数字で見ますとふえているわけですが、その中でもやはりやるべきことはやらなければ

いけないということになりますので、今後ともそういうことを慎重ににらみながらも事務事業については選択をしてまいりたいということで考えております。

それから、公有財産購入費、都市計画総務費で組んである件でございますが、これが財産管理審議会の審議を経ることになるかどうかということでございますが、取得するときには専門家の評価をお願いいたしまして、審議会規則で書いてあります2000万以上ということになりますればかけることになろうかと思ひます。

それから、繰越金の関係でございますが、これにつきましては本年度59年度は収入が100億、支出が98億3000万ということを見込んでおりまして、1億7000万ほどの繰越金が生じるわけですが、一応新年度予算につきましては5000万ほど繰越金ということで当初計上させていただいております、ですからあと1億2000万ほどが補正財源として使えるということになろうかと思ひます。

それから、固定資産税の伸び率でございますが、一応59、60の比較では8%ほど伸びているのではないかと考えております。

続きまして、地方交付税の積算の基礎でございますが、今年度と申しますか、新年度は12億8500万ほど普通交付税を計上させていただいたわけでございますが、この基礎につきましては現在考えられている数字では、基準財政収入額につきましては33億4700万、これに対しまして基準財政需要額では46億3200万ということで、この差額の12億8500万を普通交付税ということで計上させていただいております。

それから、寄附金が昨年度に比べて300万ほどふえているがどうかということでございますが、ふえた内容といたしましては水産関係の寄附金がこのくらいふえるのではなかろうかということで見込ましていただきました。漁港関係の修復工事等に係る寄附金ということでございます。

以上でございます。

○経済部長（吉岡政雄君） 4番、5番目のことにつきましてお答えいたします。

4番目の国有地払い下げ後の管理状態はどうなっているのかという御質問でございますが、これは購入いたしました土地は公簿上の赤道と青道で

ございます。そういうわけで現在耕作道路として使っておりますのと用排水路これにも使っておるところでございます。管理につきましては犬石、佐野、藤原、洲ノ宮、布沼、沼、小沼、坂井、この各農家組合が管理をしてくださっておるところでございます。

5番目の、クルマエビ、アワビ放流事業をもっとやったらどうかという、こういう御質問でございますが、アワビにつきましては60年度の見込みといたしまして、水産試験所の方で子貝が非常に足りない、そういうわけで59年度より半分程度の数量しか確保できそうもない、そういうことから半分ということになったわけでございます。クルマエビにつきましてはいろいろと資料を集めておりますが、なかなか実態がつかめないのが現状でございます。60年度は59年度の半数ぐらいを放流してみ、その水揚げ等を検討してみたい、こういうところからクルマエビもアワビと同じように半分にしておるわけでございます。こういうような考え方で予算を計上させていただきました。

◎3番(山中金治郎君) 退職金の問題でございますが、サンケイ新聞が大分熱心でしょっちゅう取り上げていることなんでしょうけれども、この中で千葉市がやはり館山と同じような80何がしの率でございますが、千葉市で退職された人が3560万、国家公務員の中央官庁の人が2270万——中央官庁の課長さんですね、そうすると中小企業共済制度に入っている人は幾らかということ583万。

ですから、私はどうしてこういうことを取り上げたかといいますと、一昨年の6月にもお願いをいたしました、何とか経済力をつけて、喜んで皆さんが今より多い税金を、館山市が税金が安いということで払い込んでもらえるように、何とか市内の一般市民の収入をふやすような経済政策を何とかしてほしい。一般市民の収入がふえてくれば別にこういう高額退職金なんていうのは目立たなくなってくるわけでございますので、それを何とかお願いしたいということで実はこれを取り上げたわけです。

市役所の人たちのやつを、今これだけもらっているのを下げられるというのは大変なことだと思うんです。しかし、できれば国の指導の方向に向けていただきたい。それまでに今言いましたように中小企業の方の共済制度を583万から1000万なり1500万に上がるような退職金の積み

立てができるようなところまでもっていけばいいんですけれども、それにしても2500とか3000万というのは私は不可能かと思いますので、何とかそれをそういう方向にひとつ努力をお願いしたいということでございます。

それから、もう1つこの機会にお聞かせ願いたいんですが、この基準財政需要額と収入額、これは予算書によって——ちょっと不案内の議員さんもおろうかと思いますが、ちょっとこれとこれとこれを足して基準財政需要額はこうなんですと、収入額はこれとこれとこれでこうなんですよというような大まかなことでもいいですから、ちょっとこれによって——歳入に関しますこれとこれとこれをして需要額ですよというようなことを御説明は無理ですか。もしできればにおいだけでもいいですから聞かしてください。

◎総務部長（川畑喜代志君） お手元にございます予算書をもとにしての積算はちょっとできないわけですが、というのは地方交付税法で事細かに積算の基礎が決まっております、そこに各必要な数値を掛け合わせていてその数字が出てくることになりますので、交付税法の方を御覧いただきたいと思うんですが……。

◎3番（山中金治郎君） そのことなんですが、確かにそのとおりなんですけれども、またあとで問題にしますから説明願いたいと思います。

終わります。

◎27番（安西益男君） 4点ほどお聞かせ願いたいと思います。

予算書の75頁、民生費中老人福祉費で19節の補助金についてでございますが、老人クラブの補助金と高齢者体力づくり健康づくり事業補助金となっておりますが、説明書で見ると老人の方たちの活動の活発化を図る、さらにまた体力づくり健康づくり事業を補助し、老人福祉の向上を図る、このように説明されておるわけでございますが、老人のニーズ、そしてまた老人そのものの年齢層も厚くそして多様化されてきておるわけでございます。そうしたことから老人のどのような要望が多いかというように適切に把握しているかどうか。それが行政の側からもそれを生かしていくというお考えがあるかどうか。

そこで、質問でありますけれども、今まで老人クラブの方たちの側から

アンケートをとったことがあるか。さらに、また老人クラブがどのような施設を望んでいるかというようなことについてお聞かせいただきたいと思います。

2点目でございますが、114条港湾管理費でございますが、16節の棧橋補修工事材料費ということにつきまして40万円計上されておるわけでございます。棧橋の補修の件につきまして館山棧橋でございますが、これまでも住民の方々よりかなりの要請がございまして、議会におきましても何回となく当局に要望してまいったわけでございますが、すでにそのことにつきましては前建設課長のときから500万ぐらいの予算を計上し、そしてクレーン船というんですか、の都合で予定しておるというようなことを聞いておったわけでございますが、依然としてあのような残骸ということでは大変困った、放置されては困ると思うわけでございます。観光面から当然でもありますし、また危険度という点からも対処していかなければならないというふうに感じております。また、地元町内会長等からもどうなっているのかというようなこともあるわけでございますが、その辺の事情をお聞かせいただきたい。

それから、予算書の119条、公園費中15節城山公園整備工事請負費でございますが、ここで植栽でクロマツほか1372本、さらにまたツツジほか700本を植栽すると計画されておるわけでございますが、さらにまた今まで各多くの樹木があるわけでございますが、こういった件について管理はどういうようにされているのか、その点をお聞かせいただきたいと思います。

いま1つは、140条になります。社会教育総務費の中の補助金でございます。館山音楽鑑賞協会補助金100万が計上されておるわけでございますけれども、これはやはり10年ぐらい前になりますか、前からということでございまして、その後の状況はどんなふうな状況かという件についてお聞かせ願いたい。

以上、よろしく願いいたします。

○民生部長（鈴木 力君） 75条の老人クラブ補助金に関しまして、老人クラブのアンケート調査をやったかということでございますが、市といたしましても特に老人クラブを対象とした調査はいたしてございません。

一昨年(58年)10月に全民生児童委員にお願いいたしまして高齢者実態調査というものを実施しております。その際には寝たきり老人、一人暮らし老人全世帯、それからなお60歳以上の高齢者の方々に対する抽出によりましての調査を実施しております。その中で、やはり要望、ニーズというものの把握ということから何を市に対して要望するか、そういうことについての調査をいたしてございます。

◎経済部長(吉岡政雄君) 館山桟橋の取り除きという御質問でございますが、これはやはり昨年の3月の議会におきまして御質問いただきまして、このとき御答弁申し上げましたのが、国、県等に問い合わせまして大型工作船が入った場合に速やかにやろうということでお答えをしておったわけでございますが、現在新年度におきましても県の方の土木事務所の方をお願いしてございまして、大型工作船が館山港に入港した場合には館山においても使わしていただきたいというようなお願いをしておるところでございます、今後大型船の入港状況を得た時点におきまして対応してまいりたい、このように対処しておるところでございます。

次の、城山公園のクロマツ等の管理等はどうかというお尋ねでございますが、現在都市計画課におきまして公園係おりまして、現場にも作業員がおります。そういうわけで、そういう方々が一応管理をする。もちろん専門家も招聘いたしましてやることもございますが、そのようにできました時点におきまして枯れないような、またみばのいいような手入れをしていきたい、このように考えております。

◎教育長(福原 修君) 音楽鑑賞協会の活動状況でございますが、年4回中央より著名な音楽家を招きまして演奏会を行っております。最近では2月に小林一男を呼びまして盛況のうちに終わりました。

なお、クラシック音楽に対する理解度が低いというんでしょうか、鑑賞する、入場する方が少なくして若干の赤字が出ておりまして、この補助費によりまして埋め合わせておるような状態でございます。

以上でございます。

◎27番(安西益男君) 老人福祉関係でお尋ねするわけでございますけれども、御案内のように最近ではゲートボール全国的に普及している。当館山市におきましても大変各所で行われておるわけでございますが、たまに

は市民運動場等で大会を行っておるということで、大変大きく老人の人たちが楽しんでいるという状況でございます。そういったことから老人の人たちが健康保持あるいはまた老化防止というような面から非常にこの面からやはり事業を実施していかなければならないんじゃないかと、こう思うわけでございます。老人の人たちが確保するという面から現在では遊休地あるいは空き地等を利用しておるようでございますが、いずれにしてもこれはなかなか公の土地は少ない。現在館山では個人の土地を利用しておることも多いと思います。そのほかに県とか国とか、そういった土地を利用しているところがあるかどうか。

さらに、またこういった個人の地主さんの土地を利用しているところは固定資産税の免除というようなこともある地方では実行しているところもあるようでありますが、そういった点で館山では考慮されるかどうか。

それから、また老人関係について、シルバーセンターといいますか、働きたいという希望者の人たちがいる。かなり希望者がいると思いますが、そういった調査といいますか、希望者が相談するようなどころがあるかどうか、そういったこともひとつお聞かせください。

桟橋の補修については、大型工作船が来るときということでございますが、これもやはり来るのを待っているのではないでしょうけれども、かなり、数年経っているわけです、そういう御回答いただいてから。ですからこれも今のお答えですと、来るのを待っているということでは何年先になるかわかりませんから、どうかひとつ要請して、いずれにしてもやっていただくということでございましょうから、それをひとつお願いしたい、こう思うわけでございます。

音楽の、鑑賞する方たちが案外少ないということでございますので、せっかくかなりの補助金を出されておるようでございますから、これも普及を大いに図っていただきたい、そう思うわけでございます。

それでは、最初の老人関係と桟橋の補修の確認をしたいと思いますので、ひとつお願いいたします。

○経済部長（吉岡政雄君） 御質問は、年度にまたがりまして御質疑いただいておりますわけでございますが、大型工作船というものがなかなかやはり忙しいんだそうございまして、私どもも積極的に館山港の工事の方につ

いても来てほしいということは県土木を通じまして今後ともお願いしていきたい、このように考えておりますので、入港情報等詳細に検討いたしまして、前向きに検討していきたい、このように考えております。

◎総務部長（川畑喜代志君） 答えいたします。

ゲートボール場として使っている土地についての固定資産税を減免できないかというお話ですが、申請等——私、1年しか経験ないわけですが、まだ出ておりませんが、もし出てくるとすれば、市の条例に基づきまして適正に判断したいと思っております。

以上です。

◎27番（安西益男君） 固定資産の面、よろしくお願ひしたいと思ひます。

もう1点、城山の件でお伺ひしたいわけですが、御存じのように城山の夜景は特にすばらしいというふうな、そういったふう聞いておるわけです。同時に沼の方面から見ますと、特に中腹に電柱が非常に目ざわりだ、あるいはまた頂上を見ましても、3灯か4灯くらい中腹にありますけれども、これを電線を地下に埋設したような方法がとれないものかという要望があるわけですが、その点ひとつお考えになられたかどうか。あるいはまた、これから検討されるということはあるかどうか。その点ひとつお聞かせください。

◎経済部長（吉岡政雄君） 城山公園の整備事業の終了年度あたりにすべてああいうような外に出ております電柱は全部地下埋設型にするという計画で進んでおります。

（「議長、1番。関連質問」と呼ぶ者あり）

◎1番（神田守隆君） 先ほど、3番議員の質疑の中にラスパイレスの問題について、国の指導が115から110になるのに対応して、市もそれに対応して今後指導を受け入れていきたいという御答弁がありましたが、大変に重大な問題だと思います、この発言については。

そこで、市長にお伺ひするわけですが、このラスパイレスの問題については、年齢構成の問題であるとか、あるいは国家公務員に比べて福利厚生面で、例えば職員向けの住宅の問題1つをとりますと、国家公務員とあるいは市の職員とでは違ふとか、さまざまな違いがあるわけであ

りまして、単純にラスパイレスの問題だけで高いとか低いとかという論議をすること自身に重大な問題があるというふうに思うわけであります。

こうした、地方自治体の抱えている具体的な問題を抜きにして、単純な数字の問題だけで国が指導をするということなど自身に問題があるんじゃないか、こういうふうに思うんでありますが、こうした問題点についてどのように考えるのか。

また、退職金の問題につきましても、中央官庁にあっては、課長さん確かに低いとかと言いますが、退職した後いわゆる天下りの問題、二重、三重に退職金をもらうとか、こうした天下りの問題というような大きな問題があるわけであります。市の職員で天下りという話はあまり聞いたことはございません。

こういう条件などを無視して単純に議論をするということについてはやはり重大な問題がある。まして、それを国が言うということ自身に大きな問題点がある。地方自治体の自主性を尊重するべきだという立場にこそ市長は立ってこの問題に対応していただきたい、こういうふうに思うんですが、いかがお考えですか。

◎市長（半澤良一君） 確かに神田議員のおっしゃることにも一利はあると思います。私もラスパイレス自身が必ずしも絶対なものだとは思っておりませんけれども、しかし公務員の給与のあり方についてやはり根本的に考えなきゃいけないんじゃないか。いろいろ世間の、特に退職金の問題については世間の批判を浴びるような問題がたくさんあるわけでございまして、そういう意味で常に謙虚に考えなければいけない、国民の納得を得られるような、そういう給与体系のあり方でなければいけないというふうに考えております。

特に、館山市110.5でございすけれども、全国の都市の、市町村の中で110を超えている市町村というのは1割程度しかないわけで、そうした事情を考えますと、やはり給与の決定というのは民間ベース、それから他市町村とのつり合いを考えて決めなさいということが原則でございしますので、そうした点から考えていきたいというふうに考えております。

◎1番（神田守隆君） 市長の答弁は答弁としてわかりましたが、こういう職員の給与の問題について国が指導する、この問題について全国市長会

等の中では、やはり自主性の問題との兼ね合いでどのように論議がされておるのか、またどのように考えられておるのか、その1点だけでおしまいにいたしたいと思います。

○市長（半澤良一君） 全国市長会と申しまして、全市長が集まるのは総会だけでございまして、あと委員会がそれぞれあるわけですが、私の所属しております委員会ではそうした問題が出たことはありません。

予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております昭和60年度各会計予算につきましては、10人の委員をもって構成する予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました予算審査特別委員会委員の選任につきましては、委員会条例第4条第1項の規定により、

2 番議員	田沢 勝信君	5 番議員	川名 正二君
6 番議員	生稲 隆君	10 番議員	横溝 功君
11 番議員	飯田 義男君	14 番議員	伊藤幸太郎君
15 番議員	渡辺 昭夫君	17 番議員	近藤 好雄君
27 番議員	安西 益男君	28 番議員	安澤 徳順君

以上、10人を指名いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました10人の諸君を予算審査特別委員会委員に選任いたします。

ただいま選任されました予算審査特別委員会委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので御了承願います。

会議日程の変更

○議長（石井 正君） この際、会議日程についてお諮りいたします。

明 1 3 日の会議日程は本日に引き続き昭和 6 0 年度各会計予算の審議となっておりましたが、本日特別委員会に付託されましたので、明 1 3 日は休会といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よって、明 1 3 日の会議日程は変更され、休会と決定されました。

延 会 午後零時 0 7 分

◎議長(石井 正君) お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明 1 3 日から 2 2 日まで委員会での議案審査のため休会、次会は 3 月 2 3 日午前 1 0 時開会といたします。その議事は議案第 1 号乃至議案第 8 号及び議案第 1 0 号乃至議案第 2 2 号等に係る各委員会における審査の経過並びに結果の報告、討論、採決及び追加議案の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第 1 号乃至議案第 8 号
- 1 予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任
- 1 会議日程の変更

